外14
A 957

一千八百六十六年六月二十五日ノ条約ニ附属セル税則編定セラレシ以来大概ノ輸入物品價値ハ甚タ下落シテ五割乃至五割以上ニモ及ヘリ輸出物品價値ノ如キモ亦同様大ニ下落ヲ生セリ

右条約ヲ商議セシ外国使臣ハ必スモ斯結果ニ至ラントノ思想ヲ当時ニ在テ預メ其ノ胸裏ニ懐キシナキヘシ蓋シ其大下落ヲ生スルニ至ルヤ定税ヲシテ凡五分ニ超ヘサル平均トラシタルヲ見テ以テ知ルニ足レリ

若シ此ノ物品ヲシテ五分税ノ根基ヲ成ルヘク保タシメント欲セハ稍宜シク改正ヲ要スヘシ

蓋シ物質ニ精粗アレハ其價値モ亦随テ異同アラサルヘカラス例之ハ甲綿布ニハ定税凡ソ八分ヲ課スト雖モ綿布ニハ僅カ

三分ヲ課スルカ如キ是レナリ

其税則ノ大体ニ就テハ課税ノ割合ニ甚シキ妨碍アルヲ認メス

故ニ余意ラク大体ノ改正ヲ為スハ到底無益ニ属セリト尤モ其

枝葉一二部分ヲ改正スルハ其ノ利益蓋シ軽少ナラザルヘシ

必要ナル日用品ノ税額ヲ軽減センク為メニ我英国ノ税則中ニ

葡萄酒類及ヒ焼酎、烟草ナノ奢物ニ属スルモノ又別ニ之ヒアル

ルヲ見ス

日本政府カ其関税ヨリ財貨ヲ徴収ハ必ク其ノ歳入ニ充テ

ンカ為メト余ハ仮定セリ因テ此ニ完全ナル自由貿易ノ利害得

失ニ就テハ暫ク辯論ヲ用ヒサレヘシ

然リト雖モ余ハ今一歩ヲ進テ此ノ覚書ノ第二ノ目的ニ適用セ

ンカ為メ爰ニ輸税ノ輸出物産者及ヒ輸入物消費者ノ襟懐ヨリ

出ツルヿヲ明カニ論スヘキナリ

例之ハ生糸ノ如キ日本ノ産出高ハ世界産出高ノ億カニ八分ノ

一乃至十分ノ一ニ居ルノミ素ヨリ生糸ノ改米諸国ノ製造者ニ

必要ナルハ論ヲ俟タスト雖モ強テ之レヲ日本ニ仰クスレテ足

レリ唯價値高低ノ一問題アルノミ故ニ此輩ハ支那ナリ伊太里

ナリ日本ナリ其最モ廉ニシテ引合トナルヘキ地ニ於テ之レヲ

買収スベシ之レニ因テ横濱ノ賣買人ハ其ノ現況一般ノ市場

現在ノ相庭ナルヲ知ルヘシ(時ニヨリテ最上等生糸ノ小量ニ向

ヒ意外ナル需要ノ発起スルカ如キハ糸ハ之レヲ指テ参考ニ耽

ラス)

例之ハ上等前橋糸ノ相庭偏数ニ於テ十八「ルリング」ナレハ横

濱ニ於テハ五百貫拾五円ニ買収シテ猶引合トナルヘキカ

如シ

然ルニ百斤ニ付キ二十五元ノ税ヲ課セリ故ニ糸ハ産糸者ノ為

メニハ五百元以上ヲ拂フヿヲ得ス嗚呼政府ハ其ノ施政費用ノ為メニ此ノ二十五元ニ要セリ若シ此ノ二十五元ヲシテ内地産糸者ノ得ル所タラシメハ其事業ヲ勧奨スルノ効アル蓋シ大ナルヘシ

輸入品ノ点ニ於ケルモ亦然リ例之ハ日本ニ於テ木綿糸ノ消費高ハ世界消費高ノ僅カ零数部分ニ居ル故ニ横濱ニ於テ百斤ニ付キ拾元ノ税ヲ課スルハ素ヨリ苛重ナラザルニハアラザレトモ之レカ為メニマンチエストル市場ニ於テ百斤ニ付キ拾元ノ相庭ヲ下落セシムルノ勢力アキハ勿論其下落ノ点ニ於テ些少ノ影響タモ被ムラシムルヿヲ得サルヘシ

既ニ然リ故ニ輸入者ニ在テハ現ニ横濱ノ相庭大ニ騰貴スルヲ待チ消費者カ其ノ政府ニ納ムル所ノ拾元ヲ原價ニ加ヘテ拂フヿヲ得ルニ至ルマテハ敢テ其輸入ヲ為サヽルヘシ

輸入税ノ増加ハ外国人ノ獲取スルモノト想像セラレタル利益タ分得スルノ良法ナリトスル思想ハ太タ迷誤ニ属スルノ見解ト謂フヘシ従来日本ノ貿易上ニ於テ外国人ノ得ル利益ハ常ニ微少ノ割合ニシテ動モスレハ失敗ヲ被ムルヲ見テ以テ知ルベシ

日本人カ横濱ニ於テ輸出入物品ヲ買入スルニ方リ輸入品ハ直ニアンチエストルヨリ買收スルヨリモ廉カニ廉價ヲ以テ之ヲ得ルヿアリ又輸出品即チ生糸、茶ノ類ハ直ニ米国ニ提行シテ賣捌クヨリモ廉カニ善價ヲ以テ賣却スルヿ亦屢之レアリ

輸出入ノ貿易品ニ於テ斯ル苛重ノ税ヲ出シ得ベキ巨利アラザルハ既ニ明カナリ然レトモ外国商人ハ独リ日本ノ相庭ト自国ノ相庭トノ比較ヲ計リ其間ニ在テ商事ヲ営ムノミ故ニ産出者ハ輸出減税ニ因テ十分ノ利益ヲ得又消費者ハ輸入増税ニ因テ重

荷ニ窘シムハ言ヲ待タサルナリ

夫レ斯ノ如クナルニヨリ我輩ハ又輸入税ヲ増加シ輸出税ヲ減少スルノ問題ニ就キ第二ノ点ニ論及セサルヲ得ス抑モ斯ル処法ノ結果如何ハ業ニ已ニ前項ニ論辯セリト雖モ亦該件ニ就キ内国新聞上ニ論スル所ノ諸説ヲ考判スルニ其処法ノ目的ハ甲社會ヨリ多額ヲ取リ以テ乙社會ヲ益センカ為メニアラス唯内国ノ工業ヲ保護センカ為メニスルト云フカ如シ

輸出税ノ減少ハ毫モ外国貿易上ニ影響ヲ及ホサヾルハ明ケシ何トナレハ已ニ論述セシ所ノ競争アルニ因リ直ニ産物ノ價値ヲシテ関税軽減ノ割合丈ケ騰貴セシムルヲ以テナリ然リト雖モ輸入税上苛重ノ増加アルトキハ一時ハ外国貿易上ニ幾分カ必ス衰頽ノ影響ヲ及ボサヾルヲ得ス何トナレハ消費者カ其物貨ノ價値一時騰貴セシ為メニ之ヲ需用スルヲ欲セザルモ終ニ好テ再ヒ輸入物貨ヲ需用スルニ至ルマテ必若干時間ヲ経過セサルヲ得サレハナリ況ヤ價値騰貴スルトキハ随テ其割合丈ケ消費ノ境界ヲ狹縮スルハ理ノ当然ナルヲヤ

若シ保護ノ力ニ由テ内國ノ工業果シテ振起スルヲ得ハ其割合丈ケ輸入貿易ノ高ヲ永遠ニ減殺ス可シ但シ此ノ保護ヲ行フノ権理ハ勿論日本ノ固有ニ属スルモノナリ

然リト雖モ余今之ヲ考ルニハ日本政府カ汲々トシテ諸工業ニ着手セントスレモ果シテ其効ヲ遂ケ得ルハ十ノ一二タモ覚束ナキヲ信スルナリ故ニ無用ノ機械ヲ蔵メタル屋舎ノ将来續々烏有ニ帰シ竟ニ政府ニ甚タシキ損亡ヲ被ムラシメ以テ斯ル企望ノ無益ナルヲ証明スルノ日アルハ余ノ預メ期スル所ロナリ

古ノ如キ企望ノ由テ起ル所ヲ想像スルニ全リ外國人ハ日本貿易ニ因テ頗ル富ヲ致スモノト忌断シテ外國人ノ媒介ヲ絶テハ

日本人自カラ若干ノ利益ヲ自有スルヲ得ヘシト思ヒ誤マリシ
ニリ来レルヿ必矣是ニ於テ行政官吏ノ胸臆ヲ察スルニ若シ綿
糸ヲ給シテ其ノ貿易ヲ保護スルトキハ内国商人ヲシテ直接ニ自
國ノ茶、生糸ヲ歐米諸國ニ輸出セシメ且ツ諸国ニ支配人ヲ置
テ之レヲ估リ加之之レカ運漕ニモ自國ノ船舶ヲ用テ運賃ヲ利
スルヲ得ベク又機械製造ハ勿論其他地球上総テノ貨物ヲモ巻
ク自國ニ製出スルヿヲ得テ日本ハ(其有様ハ少シク異ナルヘケ
レトモ)二十年前ノ孤立ニ復シ外國人ノ為メ貿易上ノ利益ヲ占
有セラレサルニ至ルベシト思惟スルモノヽ如シ
偖夫ノ裁縫師ハ衣服ヲ製シ醫師ハ醫ヲ製シ蒸餅師ハ蒸餅ヲ製
シ屠牛者ハ肉ヲ賣テ各自其ノ生計ヲ立ルヿヲ知ル
然ルニ余今一身ニ此ノ利益ヲ專占シ許多ノ富ヲ致サント欲シテ親カラ
其衣服ヲ裁縫スルノミナラス親カラ羊毛ヲ産シ羅紗ヲ織リ皮革ヲ斫リ醫ヲ製シ又

親カラ穀物ヲ作リ牛羊ヲ牧養スルトキハ誰レモ余ト労作若シク
ハ利益ヲ分ツモノナカルヘキナリ
然リト雖モ爰ニ保護法ト侯立セサル確乎タル分業法ノアルア
リ殊ニ開明ノ度未タ進マサル国ニ於テ斯ル大望ノ企テアルトキ
ハ忍チ過源ヲ此ニ發セサルヲ得サルヲ占フハ難キニアラサル
ヘシ
看ヨ近来三菱汽舩會社ヨリ發行セシ報告ノ如キ一紙中ニシテ
前ニハ將来其ノ汽舩ヲシテ処トシテ至ラサルナカラシメント
誇言シ後ニハ現今該社ニ備フル所ノ汽舩ハ悉ク航海費大要ス
ルノ割合大ナルヲ以テ會計上ニ損失アル旨ヲ明示セリ北海道
開拓及ヒ其他ノ事業ノ如キモ亦皆然ラサルハナシ
然リ而シテ爰ニ又是ノ事業ヲ興起センヿヲ補助スル一原因ノ
アルアリ二三ノ内国官吏ノ間ニ行ハルヽ賄賂即チ是レナリ凡

ソ商事保育ノ為メニスル政府ノ企図ニシテ未タ曾テ一三ノ官吏カ其間ニ私利ヲ営ムノ媒介トナラサルハ幾ト稀レナリ故ニ或ハ事ヲ議スルニ方リ其公益ヲ謀ラン為メヨリモ寧ロ私利ヲ営マントト欲スルノ念最モ甚タシカルヘキヲ恐ルヘナリ

斯ル不適当ノ競爭ニ就テハ外国貿易ノ損害ヲ被ムルハ勿論ナリ

外国貿易ノ為メニ日本ノ全国ヲ開クハ極メテ最上ノ畫策ニシテ利アルトモ決シテ一害ナカルベシ又日本政府ニ於テモ今日ニ至テハ最早現行ノ不自由ナル束縛主義ヲ将来ニ維持セントヲ主張スルノ辞ナカル可キナリ但シ日本全国ヲ以テ外国貿易ノ為メニ開カンコトヲ望メル沿外法権ニ換ヘテ而シテ之レヲ得ンコトハ余ノ好マサル所ナリ若シ内地ニ在テ非常ノ件発起スルコトアルトキハ之レヲ臨時ノ処分ニ任スルハ決シテ難キニアラザル

ベシト又況ヤ今日マテ旅行切手ノ法則ニ籍テ外国人屢内地ヲ遊歴スルコトアルモ未タ曾テ一人ノ害ヲ被ムリシモノナキニ因テ乃チ交際ノ区域ヲ擴張スルモ亦害ナキヲ保スルノ明証ナルニ於テオヤ

但シ全国一般ヲ以テ外国貿易ノ為メニ之レヲ開クトモ亦タ貨物ヲ内地ニ運送センニハ恐クハ道路嶮岨ノ支障アリ実際ニ至テハ之ヲ数港ニ限制セシモ同様ナルベキノミ

二三ノ新港ヲ開クカ如キ区々タル所分ニ付テハ余ハ其ノ結果ノ甚タ利益アルヲキトモ思ハサルナリ

蓋シ余ハ今一地ノ港ヲ開クモ貿易ノ大中心トナルヘキ見込ノ場所アルヲ知ラサルナリ已ニ日本ノ外国貿易ハ目下一二ノ港ニ集ルモノヽ如シ故ニ此上ニ二三ノ港ヲ開クモ別ニ貿易ノ盛大ニ至ルヲアラサルヘシ素日リ更ニ一港ヲ開ケハ更ニ幾分カ

ノ小利益ヲアルヘシト下命ヲ為メニ大利益ノアラサルヘキヲ云フナリ

余昔テ内地ヲ旅行シ道路ノ頗ル嶮悪ニシテ仮令ヒ僅カ数十里ノ近隣ニ貨物ヲ運送スルニモ莫大ノ費用ヲ要セサルヲ得サルニ驚キタリ

是レニ由テ観ルニ今日本ニ於テ産物ノ盛大ナランコトヲ希望ヒニハ道路ヲ修理スルニ如クハナシ運輸ノ便ヲ得ルトキハ保護ヲ行ナハ是レテ自ツカラ内地ノ工業大ニ興ルニ至ルヘシ

日本ニドローベツキ（一旦払フタル税ヲ再輸出ノ時陸運スルノ法ナリ）ノ法ヲキハ我輩ノ甚タ遺憾トスル所ナリ此法ノ如キハ其ノ便益実ニ尋常ニアラサルナリ

税則中大改正ヲ行フニ当リテハ必ス預メ之レヲ一般ニ告知シ商賈上ニ妨碍アルナカランコトヲ希望スルナリ